

「スポーツのチカラでまちづくり」

NPO法人かしまスポーツクラブ
理事長 小野 忠志さん(港ヶ丘)



スポーツクラブとの出会い

平成10年に総合型スポーツクラブ設立準備委員会委員長に選任されたことがクラブとの出会いです。たぶん、公民館活動関係者の代表みたいな感じで選ばれたのでしょね。当時は筑波大学の八代先生等の指導をいただきながらクラブの設立に向けた準備が進められ、茨城県では最初の総合型スポーツクラブとして、平成13年5月27日に設立総会を迎えることができました。

平成14年4月には、NPO法人の認可を取得し、平成15年度からは鹿嶋市のスポーツ施設の指定管理者となることができ、この後の活動にとって大きな力になりました。スポーツ施設の指定管理者となることができ、組織を維持していくための運営と経営と事務局の3つの体制を構築していくことにつながりました。

活動をとおしての思い出

活動がスタートした当初は、市長や教育長さんにも会員になっていただくなど、名誉会員のな方も多く、148名の会員がいましたが実際は50名位でしたね(笑)。最初の3年間は国の補助金もありましたので、餅つき大会をやったり、お祭りみたいなことをやったりして、スポーツクラブを知ってもらうためのPR活動をやりましたね。総合型ス



▲テニスを楽しむ活動風景



▲スポーツチャンバラの活動風景

スポーツクラブとは何なのか、今でも見えてこない難しいところでもあるんですが、設立当初は本当に手探り状態での活動でしたね。

続けてこられた理由とは?

高松緑地温水プールの指定管理者にもなったことで会員数も増加し、ピーク時は1,500名近くまで増え、市役所からは水泳指導を活用して高齢者の健康寿命を延ばそうとする事業を受託するようになりました。こういう状況になると、事業を企画する人、それを指導する人、というように、指導者も活動する場が増えたんですね。このような環境ができたことが大きかったですね。指導者のメンバーの活躍の場が増えて、それがやる気にもつながってきたと思います。

それに加えて、総合型クラブは一種目のスポーツを楽しむんじゃなくて、例えば子どもたちは午前中に水泳をやって、お昼を挟んで午後はスポーツチャンバラをやってその勢いで柔道もやるとかですね。クラブに来たらいろいろなスポーツが楽しめるようにプログラムに工夫を凝らしています。ですから、子どもを送ってきた家族の皆さんにも、送りに来て「お願いします」って子どもをおいて帰ってしまわないように、お父さんやお母さんも家族で楽しめるようなプログラムを提供していくことが「ミソ」なんです。

新しいスポーツ文化の誕生

茨城県内には現在48の総合型スポーツクラブがありますが、そのほとんどが既存のスポーツ団体を核として設立されています。しかし、鹿嶋の場合は核となる団体がなくゼロからのスタートでした。会費を払ってスポーツをするという文化には馴染みが薄く、市民の皆様の理解を得ることが難しかったですね。私たちも最初は「総合型スポーツクラブって何?」という感じでしたから(笑)

しかし、その核となる母体を持たなかったことがかえって良かったのかもしれない。スポーツが好きな人、興味を持っている人が自由に活動できる場所になることができましたね。一言で言えば、組織されていない人たちの居場所ができたんですね。お互い知らない人同士でも、いつでも、どこでも、だれもがスポーツを楽しめる機会を提供してあげられるのが総合型スポーツクラブの目指すところであり、新しいスポーツ文化の種をまいたように思います。

スポーツの楽しさを子どもたちに

今まで以上にスポーツをとおして子どもたちの成長に関わっていかれたらと思っています。指導者を学校に派遣して、スポーツの楽しさを子どもたちに伝えていきたいですね。来年20周年を迎えますが、そのことがこれからのスポーツクラブの課題だとも思っています。

PROFILE

- おの ただし
- ・鹿嶋市港ヶ丘在住
- ・鹿嶋市平井地区まちづくり委員会副委員長・福祉健康部長
- ・座右の銘
「なせば成る なさねば成らぬ何事も 成らぬは人のなさぬなりけり」
- ・趣味は木工細工・鉄細工



CONTENTS

- 2 「地域コミュニティプラン 作成支援学習会を開催」
- 3 しみせん 市民センのひろば
- 3 地域レポート・まちづくり探検隊 「鹿嶋語り部の会」
- 3 鹿嶋ものしりクイズ
- 4 INTERVIEW ROOM・きらり★まちづくり [NPO法人 かしまスポーツクラブ 小野忠志さん]



地域コミュニティプラン作成支援学習会を開催

～地域社会の変容に合わせた活動展開を学ぶ～



▲リモート形式で開催された学習会

鹿嶋市まちづくり連絡協議会（会長：塚原重徳さん）が取組んでいる地域コミュニティプランの作成活動を支援する学習会（まちづくり講座）が10月から12月にかけて延べ6日間開催されました。

学習会はコロナ禍に対応してリモート形式によって開催され、参加した各小学校区プラン作成プロジェクトチーム（地区まちづくり委員会に設置）の皆さんは、熱心に講師のアドバイスに耳を傾けていました。

学習会の開催に向けて、事前にプラン作成に関する課題を講師への質問事項としてまとめた結果、ほぼ全地区に共通する課題として「今後の自治会活動のあり方」が挙げられました。

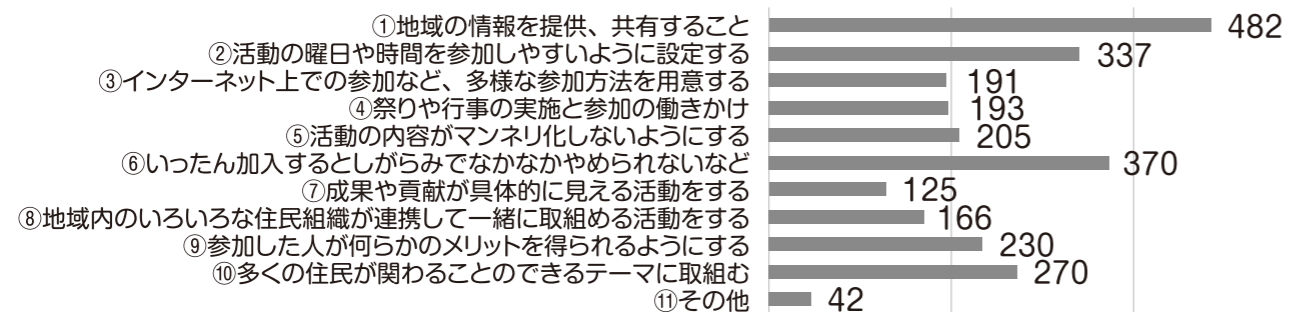
この問題に対し、講師をお願いした常磐大学の砂金教授、佐々木准教授からは、「自治会の問題は全国的に共通する課題で特効薬はありません。その地域の実情に合わせて、知恵を絞るしか解決の道はない問題です。考える時のキーワードとしては、①活動や参加のハードルを下げる。②活動のメリットを示す。③活動の必要性を知ってもらう。」ことなどが提示され、具体的な参考事例を交えてアドバイスをいただきました。

さらに講師からは、アンケート調査結果からも伺える「地域情報の共有」を図る取組みとしてSNSの活用や、若い世代のニーズに対応した活動や参加しやすい環境を整えることの必要性なども提案されました。

また、学習会と並行して進められているプランづくりから誕生した新たな取組みを支援する事業がスタートします。一つは波野地区において、住んでいる地域を知ることが「まちづくり」実践の第1歩になるとの考えを基に、地域の歴史文化資源をまとめた「波野の宝スポットマップ」を活用した新たな事業展開を図り、住民交流の機会を増やしながら、歴史文化継承の担い手などの人材育成も目指す事業。もう一つは豊郷地区において、地区社会福祉協議会を中心に開催してきた「支え合い会議（2層会議）」で検討された「高齢者にやさしいまちづくり」を具体化するための取組みが、来年3月予定のプラン完成を前に先行して事業化されることになりました。

参考：地域コミュニティに関するアンケート調査結果

問 18 地域活動に参加しやすくするために必要なことはどのようなことだと思いますか（複数回答可）



「①の地域情報の提供、共有」がトップ。次いで、「⑥の…しがらみでなかなかやめられないなど、閉鎖的な雰囲気をなくす」、「②の参加しやすい曜日や時間設定」などが上位。その他としては、「多様なテーマの設定が必要」、「区の単位より小さい班単位での行事・集りことがほしい」などの意見が寄せられています。

令和3年2月7日（日）／公民館研究集会を開催予定

テーマ（仮）『コミュニティプランの推進体制について考える』

市民センのひろば



リコーダーアンサンブルドルチェ
大川 裕子さん(宮中)

リコーダーのもつ温かい響きが大好きな私たちです。よりよい調和を求めて、何千回試行錯誤を繰り返しても、決して飽きることはありません。



Studio Apolo (スタジオ アポロ)
池田 祐弥さん(神栖市)

「ダンスの楽しさを伝えること」をテーマに掲げ、日々活動しています。愛があつて共に夢を叶えていける、そんなDANCE CLUBを目指しています。



太極ウエルかしま
久野 敏子さん(宮津台)

你好(ニイハオ) 揚名時太極拳をとおして、仲間と心身の健康増進のため楽しく稽古をしています。気の流れを感じ、バランスを取りゆつくり動きますので、転倒防止にもなります。見学大歓迎です!

地域レポート



まちづくり
探検隊 (vol.27)

～語り継ぐふるさとの民話～ 『鹿嶋語り部の会』



▲鹿嶋語り部の会のみなさん

平成17年に鹿嶋市生涯学習課による「語り部養成講座」が開催され、受講したメンバーたちの「せっかく覚えた民話をそのまま埋もれさせてはもったいない」という思いから、鹿嶋の民話・方言を語り継いでいこうと「鹿嶋語り部の会」は結成されました。

民話は、身近にある自然や神仏にまつわる話を「伝説」として残し、また人間の喜怒哀楽や知恵、教を「昔話」として残して語り継いできたもので、文字もない古(いにしえ)の時代から先人たちにより語り継がれてきたのだそうです。「お話の中から子どもたちは生きていく上での大切な物事の善悪や知恵を知らず知らずのうちに学ぶのでしょ。民話は心を豊かに育む大切な文化遺産といっても過言ではありませんね。」と鹿嶋語り部の会 代表の五喜田敏子さんは話してくれました。

主な活動は、まちづくり市民センターの「て〜ら祭」や「鹿嶋まつり」などの大きな行事への参加や、毎月第2土曜日には鹿嶋市立中央図書館で「鹿嶋の民話」の語り部の会を開催しています。また、保育園、幼稚園、小学校、児童クラブからの依頼で訪問した際には、民話を手遊びや絵遊び、パネルシアターや紙芝居など、子どもたちにも楽しく、わかりやすい方法で伝える活動をされており、他にも福祉施設や地区の行事などに出向いて民話を広める活動に尽力されています。

五喜田さんによると、「鹿嶋には、埋もれている民話はまだあります。微力ではありますが、それらの民話を掘り起こし、語り継いでいけたらと思っています。」とのこと。「先人たちが残してくれた民話を途絶えさせたくありません。子どもたちに家庭で語り継ぐ機会が少なくなった今、活動をおして、子どもたちが大人になったとき、少しでも次世代に語り継いでいってくれると嬉しいですね。」とも話してくれました。

テレビ、ゲーム、インターネット、スマートフォンなどが普及した環境で育つ子どもたちにとって、ふるさとの民話を温もりのある声で届けられるとても貴重な活動となっています。

鹿嶋ものしりクイズ

「よろこび」2020年7月号でご紹介しました「鹿嶋ものしりハンドブック」より、郷土鹿嶋にまつわるクイズを出題いたします!

Q 2020年は新型コロナウイルスの流行で、熊本県に伝わる妖怪「アマビエ」が取り上げられました。疫病退散にご利益があるというアマビエの力を借りようと、姿を描いたイラスト等が広まりましたが、鹿嶋にも疫病や災厄禍の侵入を防ぎ退散させると伝えられている人形があります。この人形の名前は何か。

A 答え)「鹿島大助(かしまのおおすけ)」[ものしりハンドブック「伝えばなし3」より]

「爪木の人形送り」という行事は「鹿島大助(かしまのおおすけ)」ともいわれ、爪木では専らお年寄りたちによって行なわれていました。大助人形は、真竹を芯にして藁で作られており、篠竹でつくった大小刀を差して腕を組んでいる武者の姿をした人形です。この大助を集落境に立てて、悪魔祓いと家内安全を祈る念仏を唱えます。